

令和2年度 入学の告辞

九州工業大学長 尾家 祐二



この度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響拡大に伴い、

関係する皆さまの健康面・安全面を考慮し、感染拡大のリスクをできるだけ減らすために、令和2年度九州工業大学入学式の中止を決定しました。

入学生をはじめ、保護者および関係者の皆さまが心待ちにされていたことと存じますが、皆さまの安全確保と感染拡大防止を最優先とし極めて残念ではございますがこのような決断に至ったことを、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

このような状況ではありますが、

改めまして、ご入学おめでとうございます。栄えあるこの日を迎えられるました皆さんに、心からお祝いを申し上げます。そして、これまでのご努力に敬意を表します。九州工業大学に皆さんを迎えることができたことは、この上ない喜びであります。教職員を代表してお祝い申し上げます。

これから皆さんが学ばれる九州工業大学は、1909年に開校した私立明治専門学校を前身としています。創立者は、安川敬一郎氏です。我が国の産業の礎となった北九州及び筑豊地域で安川電機の設定など様々な産業を興された経済界の重鎮です。明治時代の日本は、産業面、経済面において、当時の世界の大国からは、大きく遅れをとっていたため、国家を支える人材育成が必要でした。安川先生は、「国家によって得た利益は国家のために使うべきである」

という信念から巨額の私財を投じ、我が国の産業の振興を支える技術者を育成する明治専門学校を創設されました。

安川先生は明治専門学校で教育と研究を東京帝国大学総長であられた山川健次郎先生に託されました。山川先生は、開校式において、明治専門学校を「技術二通ジテイルジェントルマンヲ養成スル学校デアル」と宣言され、品格と創造性をもつ人材を輩出することを目指されました。

この山川先生の志は、「技術に堪能なる士君子」の養成という本学の建学の理念として、100年以上の歴史を超えて脈々と伝えられ、現在に至っています。新入生の諸君は「技術に堪能なる士君子」という言葉をこの場で覚えていただきたいと思います。

さて、皆さんがこれから本学で学び始めるこの機会に、改めて、なぜ学ぶのか、そしてどのように学ぶのか、について考えてみたいと思います。

歴史学者リン・ハントはその著「なぜ歴史を学ぶのか」（岩波書店

刊）の最後において、紀元前のローマ時代の政治家キケロの次の言葉を引用しています。「生まれる前に起こった事項に対して無知でいることは、子供のままでいることを意味している」。歴史だけでなく、様々なことを学ぶことによってこそ、皆さんは、自らのいろいろな可能性を見出したり、自らを創り上げることができます。多くを学び、多くを考え、多くの経験することによって、それぞれの個性が築かれます。そのことの大切さについては、およそ2500年前の中国の孔子も、「直きを友とし、諒を友とし、多聞を友とするは益なり。」（季氏第十六）と言っています。中国文学者 吉川幸次郎の著「論語 下」（朝日新聞社刊）では、「直き」とは、剛直な人物。『諒』とは、誠実な人物。『多聞』とは博識な人物。それらを友とするのは利益である」と解説されています。真つ直ぐで、誠実で、よく学ぶ人は、ある種の理想的な人物です。大学において、よく学ぶ仲間と、学ぶ大切さを体感してください。

次の話題は、「どのように学ぶか」

です。皆さんは、本学で工学分野の様々な専門的な知識を学び、スキルを身に付けるために入学されました。工学は、課題を解決し、未来を構築する学問であるとも言われます。したがって、「2050年の技術―「エコノミスト」誌は予測する―」（文芸春秋）において、「社会として行動することなく、テクノロジーだけに問題の解決を委ねることはできず」、「テクノロジーだけで完結する優れた解決策など、あったとしてもきわめてまれである」と指摘し、「テクノロジーによって何らかの問題が最終決着することもあり得ない。新たに挑戦すべきこと、解決しなければならぬ新たな頭痛の種は常に出てくる」と述べられています。工学を学ぶ人は、工学だけではなく、それを用いる人や、用いられる社会などについても理解することが大切になります。また、異なる専門分野の人たちとの連携活動が必須になりますので、協働のスキルも大切です。まず、専門的知識およびスキルをしっかりと理解し、身に付けてください。そして、自分の専門以外の工学分野についても興味を持ち、さらに

は、社会、経済、文化、芸術などは、様々なことに興味を抱き勉強してください。本学では、グローバル時代で活躍し続けるために必要な様々な学習機会を提供しており、是非、九州工大の海外研修プログラムなどを活用してください。昨年度はおおよそ700名の学生諸君が海外での学習を経験しています。

本学は昨年創立110周年を迎えました。伝統は築きあげていくものです。皆さんの学びによって本学の新たな伝統が築かれていきます。入学された皆さんが、健康に十分留意され、知を好む人たちが集まるこの大学で、様々な学習機会と環境を活用し、多くの事を試み、意義ある大学生活もしくは大学院生活を過ごされますことを心から希望致しまして、告辞と致します。本日は誠にありがとうございます。